平成 17 年４月の解説（週間天気予報）

【４月の天候状況】

上旬は、３日前後の間隔で、低気圧が日本付近を通過してほぼ全国的に雨が降りました。これらの低気圧が通過した後に一時的に冬型の気圧配置となり、北日本では一部で雪となりました。その後は、低気圧が北に偏ったコースを通過することが多くなり、北日本ではしばしば雨が降りました。その反面、東日本から西日本では移動性高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。このため、月を通しては北日本を除いて晴れの日が多く、月降水量では、西日本で平年の 40%未満のところが多くなり、日照時間では、東日本から西日本にかけて平年の 120%以上のところが多くなりました。気温は、西日本で平年を 1℃上回ったところが多くなりました。

【４月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は全国平均では例年(注) より 7 ポイント高い 75%でした。特に関東甲信、中国及び四国地方では例年より 13～14 ポイント高くなりました。ただし、最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より 0.1℃大きい 3.0℃で、特に関東甲信、北陸、九州南部地方では例年より 0.3℃大きくなりました。北海道地方では 0.3℃小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より 0.1℃大きい 2.4℃で、特に中国、九州北部地方では例年より 0.４℃大きくなりましたが、北海道地方では 0.4℃小さくなりました。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【４月の週間天気予報から】

週間天気予報では７日前からの予報を発表していますが、一般に気象予報は先の予報になるにつれて精度が低くなり、発現頻度の少ない「雨が降る」状況を 7 日前から正確に予報することは難しくなります。表は、４月 20 日から 25 日を対象として発表した週間天気予報（7 日前から 3 日前までの予報）での東京地方の天気・降水確率の予報及び同じ日に対応した実況（東京地方予報区内の観測所（10 地点）のうち、1mm 以上の降水を観測した地点数の割合）を示しています。これによると、25 日の場合は 3 日前になってようやく「雨が降る」と予報できました。

それでは、「雨が降る」との情報をもっと早めに察知することはできないのでしょうか。ここで、降水確率予報に注目してください。東京地方の観測所の 50%以上で 1mm 以上の雨を観測した４日間のうち 25 日の場合は４日前に 40%、7 日前には 30%と予報しています。20 日、21 日、26 日の場合では７日前に既に 40%の降水確率を発表しています。一方、雨のなかった 23 日、24 日の場合について

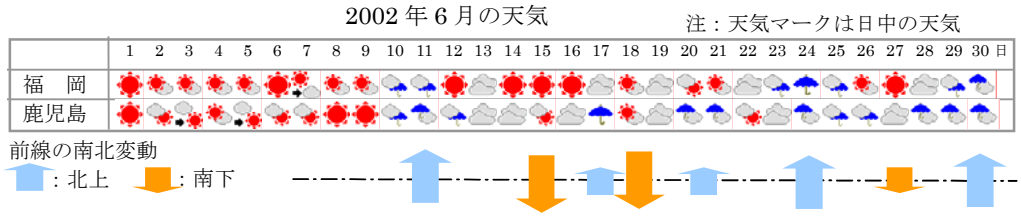
	1mm 以上の降水を観測した地点数の割合（%）	東京地方に発表した週間天気予報 上段：天気、下段：降水確率（%）				
		3 日前	4 日前	5 日前	6 日前	7 日前
4 月 20 日	100	60	50	40	40	40
21 日	100	60	60	60	60	40
22 日	10	10	20	10	30	20
23 日	0	10	10	10	10	20
24 日	0	10	20	10	20	20
25 日	50	60	40	30	30	30
26 日	100	50	60	50	40	40

は、7日前から10～20%の低い値が連続しています。発表された降水確率予報をみて、7日前でも30%や40%のやや高い値になっている場合には、「ひょっとすると雨が降る可能性もある」との情報を引き出すことができます。

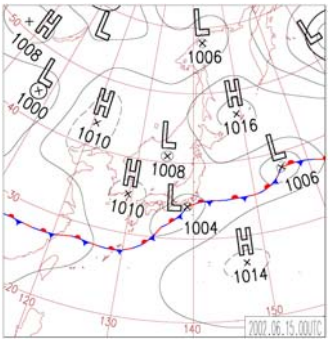
（注）降水確率とは、予報区内で一定の時間内に降水量1mm以上の雨または雪の降る確率（%）です。降水確率60%とは、60%という予報が100回発表されたとき、その内のおよそ60回は1mm以上の降水があり、40回は1mm以上の降水がないという意味であり、降水量を予報するものではありません。

【６月の天候の特徴と週間天気予報の利用に際して】

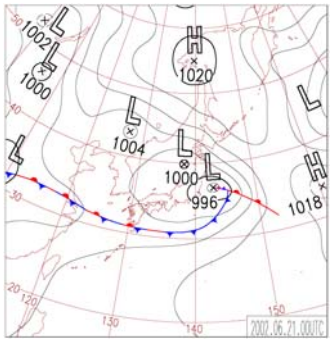
5月には日本の南海上にあった梅雨前線が、南へ行ったり北へ行ったり日々の移動を繰り返しながら、平均的な位置が次第に北上してきます。これが日本の本州付近に数日以上停滞するようになるといよいよ本州でも梅雨の始まりです。一般に梅雨は、曇りや雨の日が続くことが特徴ですが、梅雨前線の位置が微妙に南北に移動することで天気の様子が大きく変わります。



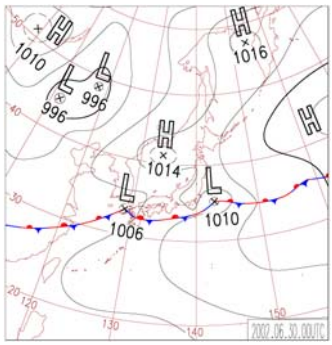
2002年は6月10日～11日にかけて低気圧が日本海を通過した後、梅雨前線が九州南岸まで北上して停滞したため、福岡（九州北部地方）、鹿児島（九州南部地方）ともに10日頃に梅雨入りしました。その後14日～16日にかけて梅雨前線が一旦南下しましたが、その後小さな南北移動を繰り返して次第に北上し、30日には九州北部地方まで北上しました。15日(図a)のように梅雨前線が大きく南下して九州から離れれば福岡、鹿児島ともに晴れや曇りです。21日(図b)のように南下しても九州からそれほど離れない場合は、福岡では晴れや曇りですが、鹿児島では雨が降っています。さらに、30日（図c）のように九州中央部まで北上した場合には、鹿児島、福岡ともに雨が降っています。



図a 2002年6月15日9時の天気図



図b 2002年6月21日9時の天気図



図c 2002年6月30日9時の天気図

この時期の天気は、梅雨前線の微妙な南北移動によって大きく変わり、この移動の予想は、日本全体を覆うような大きさの低気圧の移動に比べて難しくなります。週間天気予報をご利用になる際には、なるべく最新の天気予報で確認されることをお勧めします。